

今月のテーマ すでに起こった未来



田上市長の 恋とトコ

～自らの思いを皆さんに語るコラム～

新しい年の始まりです。

これから始まる一年のことを考えるときに、「どんな一年になるだろう?」という考え方や「どんな一年にしよう?」という考え方があのような気がします。

「どんな一年にしよう?」は、周囲の環境にかかわらず、自分のありようを定める感じだと思います。例えば、希望の学校に合格するとか、仕事で何かを達成するとかもあるでしょうし、「思いやりを忘れない」など心のありようを決める目標もあるでしょう。

これは周りがどうあれ自分で決める目標なので、「よし」とエネルギーが湧き、体に満ちてくる感じがします。今年の自分のキャッチフレーズを決めたり、書初めにしたりするのも楽しいかもしれません。「正月」にはそんなことを自然にできる力があります。

* * *
わたしの尊敬する人の言葉に「すでに起こった未来」があります。未来は突然やってくるのではなく、最初に小さな変化として表れ、やがて大きな影響を及ぼすようになる。だから「すでに起こった未来」

を探せ、というわけです。

「すでに起こった未来」を探すときに、「一番最初に挙げられるのは人口構造の変化です。」

平成26年5月、「日本創成会議」が、独自の人口推計に基づいて、日本の消滅可能性都市896のリストを発表し、大きな反響を呼びました。2010年からの30年間で、20歳から39歳までの女性が半数以下に減少する自治体は、消滅の可能性があるという指摘です。長崎市はかろうじて「半数以下」ではありませんでしたが、減少率は48%台でかなり近い数字でした。

長崎市は、昭和60年以降の30年間で約7万人、人口が減少しました。これからの30年間で、さらに10万人以上が減少すると推計されています。人口の減り方を抑え、活力を増していくまちづくりを、これまで以上にしっかりと進めていく必要があります。そのときにも「すでに起こった未来」から可能性を見つけることができます。

10年ほど前に長崎の観光のあり方を検討している中で、「まち歩きにたどり着きました。それは観光形態の変化を

観察し、その

変化が長崎に大きな影響を与えることを考える中で生まれたアイデアでした。その時、もう一つ検討の対象になったのが「国際観光の活発化」という変化です。



観光形態は「団体」から「個人」へ

今、まち歩きは全国に広がり、長崎はまち歩きのトッパンナーといわれるようになりました。そしてもう一つの変化、国際観光客も年々増加しています。それは長崎に交流人口の増加をもたらし、世界に貢献できる機会を増やし、長崎のブランドを高める可能性を大いに持っている変化です。

こういつた変化にしっかりと対応することで、長崎の未来が広がります。

* * *
「すでに起こった未来」は、あらゆる分野でも大切な視点です。それが「明日をつくるために今日何をなすべきか」を考えることにつながります。新しい一年を、わたしたちのまち長崎の可能性を大いに広げ、未来に向かって力強く歩む一年にしたいものです。



本殿の裏にひっそりと佇む名所



境内中央には立派な本殿

桑姫社は小さな鳥居が目印



大きな鳥居がお出迎え

ながさき
フチ旅行

本殿裏にも隠れた名所
ぶらり旅

出かけて見る・知る
まちの
オススメ
スポット

ロープウェイ前バス停すぐ側、鳥居下の階段を上ると、淵神社があり、そして本殿左脇には、小さな社があります。

この社はキリシタン大名の大友宗麟の孫娘・桑姫を祭っており、縁結びの神様として良縁を願う参拝客が日々訪れています。そして、側のわき道を上ると今回お目当ての干支神社が見えます。

静かに佇む6つの社には、それぞれ2つの干支が祭られています。これは向かい干支といって、干支を円に並べた時に向かい合わせになる干支を一緒に祭ったものです。自分の向かい干支を大事にするとは自分にも力を補い、力を与えてくれるといわれています。

あなたの向かい干支はなんですか? ご自分の向かい干支をお参りに一度訪れてみてください。